

日本労働年鑑 第27集 1955年版
The Labour Year Book of Japan 1955

第二部 労働運動

第四編 その他の社会運動

第一章 平和運動

国際平和賞

一九五三年年頭、一九五二—三年度国際平和賞審査委員会は、一九の表彰を提案した「そのうちの金メダル賞には、平和擁護日本委員会ならびに日本文化人会議が推薦した日本の画家、赤松俊子、丸木位里両氏の筆になる「原爆の図」がふくまれている。

〔名誉平和賞〕

ブルガリアの詩人であり国民的英雄であるヴアツァロフに。彼はナチに抗する闘いの中でたおれた。

〔国際平和賞〕

- 一、フランスの詩人、ポール・エリュアール。彼の作品と平和のための活動。
 - 一、アメリカの科学者W・E・B・デュボア。平和活動のために。
 - 一、ドイツのフィルム技師、マルチン・ヘルベルヒ・クルト及び、ジャンネ・ステン。“The Condemnedville age”のために。
 - 一、アイスランドの小説家H・ラックスネス。平和のための文学活動によって。
 - 一、メキシコの版画家、レオボルド・メンデス。
 - 一、インドの小説家、M・R・アナンド。
- これら六つの平和賞の各々の額は二五〇万フラン。

〔金メダル〕

- 一、フランスの漫画家、J・エフィール。
- 一、チェコスロバキヤの詩人、レ・ナズヴァール // 平和の歌 //
- 一、イギリスの小説家、J・アルドリッチ。小説 // 外交家 //
- 一、ブラジルの音楽家、C・サントロ。交響曲 // 愛と平和の歌 //
- 一、アルジェンチンの作家、S・M・R・オリヴァー
- 一、日本の画家、赤松俊子、丸木位里。// 原爆の図 //
- 一、フランスの彫刻家、G・サレンデラ。
- 一、イランの小説家、B・アラーヴィ。書物 // ナメハ //
- 一、ルーマニアの彫刻家、ソーヴァシイ、木彫 // 朝鮮の人々 //
- 一、ヴェネゼラの詩人、C・A・レオン。
- 一、コロンビアの法学博士、L・C・ペレス。

- 一、フィンランドの彫刻家、V・アルトネン。

五大国への進言

前年一二月、ウィーンで開催された諸国民平和大会(本年鑑二六集六三〇ページ)は、五大国にたいして、つぎのような進言をおこなうことを決定した。

国際紛争を解決する手段としての実力行使をやめなければならないことは日まじに切実な要求となってきています。平和条約を結ぶため五大国が話し合うよう要求したアピールに世界六億の男女が完全な責任感をもってすでに署名しました。

いろんな多くの傾向の世論の代表たちも武力政策をやめ、交渉の政策をとることに賛成しました。一九五二年一二月一二日ウィーンで開かれた諸国民平和大会は人類の意志をあらわし、アメリカ、ソ同盟、中華人民共和国、イギリス、フランス政府にたいしこの交渉をはじめようおごそかに要請します。平和の維持はこの交渉いかんにかかってい

ます。

五大国協定、平和条約の締結は国際間の緊張にとどめをさし、世界を最大の不幸から救うでせう。諸国民はこれを要求します。

そして、同大会はヴィルト(ドイツ元首相)、キュリー(フランス)、ネンニ(イタリア)、エンディコット(カナダ)、フェルトン(イギリス)、羽仁五郎(日本)、キチリュウ(インド)、茅盾(中国)、ニッチ(イタリア)、ら一九人の「五大国への進言」実行委員を任命した。この実行委員会は、周恩来の朝鮮休戦会談に関する声明が発表された翌日、三月二九日に、五大国政府へあててつぎのような手紙をおくった。(引用したのはアメリカ政府へあてた手紙の写しである。)

諸国民平和大会の諸決議を実行する任務を与えられた私たちは、三月一六日、一七日ウィーンに会合し大会で票決された五大国に交渉を開始し平和条約を締結することを希望する進言を五大国政府へ送ることを決定しました。私たちはあなたに諸国民平和大会の進言を提出しますが、なおソ同盟、中華人民共和国、イギリス、およびフランスへも同じ進言を送っております。

この進言は平和を求める人類の意志を表現したもので、恫喝と武力に訴えることをやめ、あらゆる紛争を話し合いによって解決し平和条約を結ぶことを五大国によびかけております。諸国民平和大会以後におこった諸事件は平和的解決を求めることを以前にもまして緊急のものとしております。

私たちは貴国政府の回答を頂き、貴国政府が私たちの進言を歓迎され、これに応じた行動をとる意向をもっておられるかどうかを知りたいと思います。

この「進言」にこたえ、ソ同盟、中国両政府は、平和条約をめざす五大国会議に参加する用意のあることを回答した。以下はソヴェト政府の四月二七日付回答全文である。

尊敬するみなさん。ソヴェト政府はさる三月二七日付の貴電をうけとりました。この電報は世界諸国民平和大会委員会の委任を受けた各氏からおくられたもので、世界諸国民平和大会のアピールがのべてあり、アピールにはソ同盟、アメリカ、中華人民共和国、イギリスおよびフランス五カ国の平和条約締結が提案されています。ソ同盟政府は諸国民間の平和と友好を強化する自国の政策にもとづき世界諸国民平和大会のアピールおよびその提案に同意します。

ソヴェト政府は関係諸国間の話し合いで平和的に解決されえないような紛争問題ないし未解決問題はないと信じております。それゆえ、ソヴェト政府は世界平和と国際安全を強化するという、けだかい目的を達成するため常に他の諸国の政府と協力する用意があります。

総評「朝鮮戦争即時解決のために世界各国の労働組合に訴える」

二月一〇日、総評評議員会は「朝鮮戦争即時解決のために世界各国の労働組合に訴える」と題し、つぎのような声明を発表した。この声明は、日本の労働者階級が全国民とともに、世界の労働者階級を中心とする平和勢力と団結して、アメリカの「まきかえし政策」とたたかうという積極的な態度を表明したものであった。

一、朝鮮動乱はすでに二年八ヵ月を経過した。その惨禍と恐怖とは全世界にまで第三次大

戦の危機を波及させている。しかして五一年六月マリク・ソ連代表の停戦提案に始まった交渉はついに決裂し、かえって事態を悪化させ、全世界の平和国民の期待を裏切ったものである。

二、われわれは、再軍備による日本の戦争介入の危機、再軍備による国民生活水準の低下に反対して闘ってきた。また朝鮮の同胞に対して同情と連帯とを感じてきた。極東戦乱を拡大する危険と闘うために、日本の全平和国民とともに朝鮮戦乱の平和的解決を希ってきたところである。

三、しかるにアイゼンハワー米大統領は突如として「台湾の中立解除」を発表し、いわゆる「まきかえし政策」を強行しはじめた。このことはアジアの戦乱を拡大させ「アジアの戦闘はアジア人をしてたたかわせる」最初の危険な計画の具体化である。また、それはアジア全地域の労働者、農民の死の恐怖であるばかりか、西欧諸国の軍拡による労働者生活水準の低下とつながっている危険である。

四、それゆえに、われわれは全日本国民の平和勢力とともに「アジアの不戦」、「朝鮮戦乱の即時停止」を要求して、世界平和のすみやかな獲得のために一切の内外反動政策とたたかう決意を有する。

五、総評第三回評議員会は、全日本の平和国民を代表して、全世界の労働組合が一致団結して「力によるまきかえし外交」に反対し「朝鮮戦乱の即時停止」を要求する全国民的平和運動をまきおこされんことを全世界の労働組合にたいしここに要請する。

周恩来声明にこたえて

三月二八日、朝鮮休戦会校に関する周恩来の声明が発表され、ゆきづまっていた休戦会談に解決の曙光をあたえたが、平和擁護日本委員会もつぎのような声明をおこなった。

(周恩来声明を支持し即時停戦を要求しよう)

昨年一二月ウィーンにおける世界諸国民平和大会は、全世界の平和を愛する人々の名において「国家間のどんな対立も、交渉によって解決できぬものはない」という確信を宣言し「朝鮮における一切の戦闘行為を直ちに停止することを要求」しました。

今回の中華人民共和国周恩来首相の声明はこの大会に示された世界諸国民の平和への要求に完全にこたえるものであり、戦争のきょういにおびえていた世界の人々に明るい平和の曙光を与えました。

われわれは公正と互譲の精神に貫ぬかれたこの声明を心から支持するとともに、朝鮮戦争が傷病捕虜交換から休戦会談の再開へ、そして即時停戦に到達するととを期待するものであります。停戦の実現こそは、前戦基地として生活を破壊されつつある日本国民を救うばかりか、アジアから戦争の危険をとりのぞき世界平和への第一歩となるであります。

われわれはみなさんが周声明を支持され、職場で居住で学校で家庭で、そして一人から二人へ、二人から四人へと停戦の要求をひろめ、全国が停戦をのぞむ声で埋まるよう運動されることを願望してやみません。

とくに総選挙のいま、みなさんが即時停戦に努力する平和的政府をつくるため、党派にこだわらずすべての平和愛好者を国会に送られることをのぞみます。これこそが周声

明にこたえる道であり、世界の平和愛好者にこたえる道でもあると考えるからであります。

平和を愛するみなさん。一日も早く停戦を実現して、祖国日本に平和と独立、自由と繁栄をもたらそうではありませんか。

日本労働年鑑 第27集 1955年版

発行 1954年11月5日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 時事通信社

2001年10月16日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1955年版(第27集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
